

地方独立行政法人大阪産業技術研究所
令和2事業年度の業務実績に関する評価結果
(案)

令和3年 月

大 阪 府

大 阪 市

目 次

1	地方独立行政法人大阪産業技術研究所の評価の考え方	1ページ
2	全体評価	2ページ
(1)	評価結果と判断理由	
	＜全体評価に当たって考慮した事項＞	
	① 法人の基本的な目標	
	② 令和2年度における重点的な取組	
	③ 特筆すべき取組	
	④ 課題	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3	大項目評価	
3-1-1	「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援）	5ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-1-2	「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （高度化する企業の技術・製品開発に伴走する企業支援研究の推進等）	7ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-1-3	「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （大阪産業を支える技術人材の育成等）	9ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-2	「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目	11ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-3	「財務内容の改善及び効率化」及び	
3-4	「その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目	12ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	

1 地方独立行政法人大阪産業技術研究所の評価の考え方

知事は、地方独立行政法人大阪産業技術研究所について、「地方独立行政法人大阪産業技術研究所にかかる評価の考え方について」（平成30年6月15日施行）に基づき、大阪市長と協議の上、次のとおり令和2事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

（評価の基本方針）

年度計画及び中期計画の進捗状況等を数値目標の達成状況、具体的な事例等で評価し、組織・業務等に関する改善すべき点や府市法人の統合によって可能となる取組等を明らかにすることにより、法人運営の質的向上及び法人が目指す「スーパー公設試」の取組等に資することとする。

（評価の方法）

事業年度評価は、「項目別評価」と「全体評価」により行う。

「項目別評価」では、中期計画及び年度計画に基づく小項目・大項目により、法人による自己評価をもとに、業務実績に関する事実確認や法人からのヒアリングなどを通じて、年度計画に照らして進捗状況を確認するとともに、法人の自己評価の妥当性の検証と評価を行う。

「全体評価」では、項目別評価の結果等を踏まえつつ、中期計画等の進捗状況について総合的な評価を行う。

（項目別評価の具体的方法）

項目別評価は、①法人による小項目ごとの自己評価、②知事による小項目評価、③知事による大項目評価の手順で行う。

① 法人小項目自己評価

実績報告書の小項目ごとに、I～Vの5段階で自己評価を行う。

② 知事小項目評価

法人の自己評価、目標設定の妥当性などを総合的に検証し、小項目ごとにI～Vの5段階による評価を行う。

③ 知事大項目評価

知事における小項目評価の結果、特記事項の記載内容等を考慮し、大項目ごとの進捗状況について、S・A～Dの5段階による評価を行う。

（全体評価の具体的方法）

知事において、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の進捗状況について評価を行う。

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

- 令和2事業年度の業務実績に関する評価について、5ページ以降に示す「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」の1及び2、「業務運営の改善及び効率化」及び「財務内容の改善及び効率化・その他業務運営に関する重要事項」の5つの大項目について、A評価（「計画どおり」進捗している）、また新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」の3の大項目について、C評価（計画の進捗が「やや遅れている」）が妥当であると判断した。
- 特に、以下の取組を評価した。
 - ① 国際規格に対応した電波暗室を活用した積極的な技術支援の取組やトヨタなどの大企業が参加するオールジャパン国家プロジェクト「NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業」の取組を推進し、「NEDOムーンショット型研究開発事業」に国立研究開発法人産業技術総合研究所等と連携提案した「光スイッチ型海洋分解性の可食プラスチックの開発研究」が新たに採択されるなど、「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」の1及び2に関する計画を順調に実施した。
 - ② 事業収入の確保、財務基盤の強化と効率的な予算執行等に計画的に取り組むほか、「財務内容の改善及び効率化」「その他業務運営に関する重要事項」等に関する計画を順調に実施した。
- 以上の大項目評価の結果に加え、3ページ以降に示す法人の基本的な目標、重点的な取組等を総合的に考慮し、全体評価は「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」とした。
- なお、法人の取組について、次の意見を付記する。

法人において、多様化・高度化する企業の技術課題やニーズに対応するため、技術支援、支援研究及び人材の育成等に積極的に取り組んで企業の課題を解決するとともに、「NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業」の推進や競争的外部資金の積極的な獲得の取組を高く評価した。引き続き、和泉及び森之宮センターの優れた技術力や強みを融合して技術支援や研究開発に取り組むとともに、コロナ禍においても顧客満足度の向上や新たなサービスの拡充に努め、オープンイノベーションの推進による一気通貫の企業支援など、ものづくり中小企業への支援サービスの向上に積極的に取り組んでいくことを期待する。

住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上（5～10ページ）	1	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
	2	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
	3	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
業務運営の改善及び効率化（11ページ）		S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
財務内容の改善及び効率化その他業務運営に関する重要事項（12ページ）		S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり

法人の基本的な目標、令和2年度の重点的な取組等を
総合的に考慮して・・・

<全体評価の評価結果>

「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」

<全体評価に当たって考慮した事項>

① 法人の基本的な目標

- 和泉及び森之宮センターの強みを活かし、得意分野に応じた研究開発から製造までの一気通貫の支援や利用サービスのワンストップ化等のサービスの向上に取り組み、多様化・高度化する技術課題、成長産業分野への参入や海外展開に取り組むものづくり中小企業を積極的に支援する。
- 両センターのネットワークや優れた技術力を融合し、産官学連携によるオープンイノベーションの推進や成長分野の研究開発、国際基準対応に取り組み、企業の成長・発展に積極的に貢献するとともに、技術支援や研究開発のポテンシャルを高め、大阪産業の成長を牽引する知と技術の支援拠点“スーパー公設試”を目指す。
- 顧客満足度の向上に取り組み、顧客の拡大や効率的な業務運営で得られた収益を更なる支援に投資、企業に還元する好循環を生み出す運営を目指す取組を推進する。

② 令和2年度における重点的な取組

- 令和3年4月の「3D造形技術研究開発センター（仮称）」の整備
- 国際規格（ISO/IEC 17025）の認定を取得した電波暗室による技術支援の実施
- 中小企業の海外展開支援セミナーの開催
- JNLA試験認定事業者としてLED電球に関する試験体制の維持
- ハイエンドなものづくりの推進及び成長分野に挑戦する企業への支援、新産業の創出を促す「プロジェクト研究」の実施
- 最新3Dものづくり機器（5軸制御マシニングセンター等）の府内中小企業への普及促進及び業界団体と連携した人材育成
- テクノイノベーションプラザの開設、ビジネスコーディネータの配置
- 国立研究開発法人産業技術総合研究所、関西広域連合等と共同で関西圏の公設試が一堂に会する「産業技術支援フェア in KANSAI」の開催
- 金融機関と連携した先進技術スタートアップ事業の実施
- 和泉市及び東大阪市と連携した医療分野への新規参入促進支援
- おおさかグリーンナノコンソーシアム事業による各種企画・運営・支援
- 産学官連携による自主企画研究会の推進
- 次期中期計画策定に向けた外部有識者から助言を得るための経営諮問会議の開催
- 策定した各センター版BCP（事業継続計画）の検証作業と課題解決に向けた取組

- ③ 特筆すべき取組（（１）全体評価「評価結果と判断理由」の記載内容を除く）
- ・独立行政法人工業所有権情報・研修館（ＩＮＰＩＴ）の開放特許情報データベースへの法人の知的財産登録の取組
 - ・５軸加工技術を紹介するWebサイトや紹介動画のYouTube公開
 - ・和泉センターにおけるテクノイノベーションプラザの開設
 - ・両センター依頼試験等の申請手続の一元化の取組
 - ・両センターの顧客情報データベースの共有化
 - ・法人独自のWebセミナー等の開催に向けた機器導入等の取組
 - ・森之宮センターにおける大阪市立森之宮小学校生徒を受け入れての実験見学会の実施
 - ・外部有識委員を招いての経営諮問会議の開催
 - ・申請書類等の押印の見直しに向けた各種規程整備などの取組
 - ・新型コロナウイルス感染症の拡大により売上げが減少した府内中小企業に対する依頼試験、装置使用等の利用料金の50%減額事業の実施
 - ・和泉センターにおける無線LAN中継器の新規整備及び森之宮センターにおける館内ロビー等へのWi-Fi環境整備による利用者の利便性向上
- ④ 課題
- ・コロナ禍における「中小企業海外展開支援セミナー」の開催に向けた取組の推進
 - ・コロナ禍における「人材育成延べ人数」及び「技術情報の発信件数」の目標達成に向けた取組の推進
 - ・法人経営や顧客サービスの向上に必要となる情報を蓄積するため、企業支援に関する顧客情報データベースの登録内容の更なる充実

（２） 評価に当たっての意見、指摘等

- 国立研究開発法人新エネルギー産業技術総合開発機構（NEDO）ムーンショット型研究開発事業に、国立研究開発法人産業技術総合研究所等と連携提案した「光スイッチ型海洋分解性の可食プラスチックの開発研究」が新たに採択されたことを高く評価する。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した「中小企業海外展開支援セミナー」や目標値を大幅に下回った「人材育成延べ人数」及び「技術情報の発信件数」については、オンライン形式で開催するなど工夫し、コロナ禍に応じた取組を進められたい。
- 引き続き、法人経営や顧客サービスの向上のため、企業支援に関する顧客情報データベース登録内容の更なる充実を図られたい。

3 大項目評価

3-1-1 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目（中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援）

(1) 評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

- ① 来所、電話、インターネット等の多様な相談を通じて企業の課題解決に取り組み、数値目標に掲げた「技術相談満足度」が目標値を上回った。また、利用者アンケートの結果に基づく利用者サービスの質の向上に取り組んでおり、「多様なニーズに応える技術相談の充実」について年度計画を上回って実施していると判断した。
- ② 基盤研究の成果と技術ノウハウを活用した様々な研究支援を組み合わせ、企業のニーズに応じた受託研究及び簡易受託研究を実施し、企業の製品開発や困難な技術的課題の解決等に取り組み、数値目標に掲げた「受託研究及び簡易受託研究の実施件数」が目標値を上回っており、「多様な企業ニーズに応える受託研究の推進」について年度計画を上回って実施していると判断した。
- ③ 外部講師による特許制度に関するセミナー及び先行技術調査研修を開催して職員の知的財産マインドの向上や特許出願等における技術向上を図り、知的財産シーズ集を発行して法人保有の知財の活用を推進するとともに、新たに独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPI）の開放特許情報データベースへの登録などに取り組み、数値目標に掲げた「知的財産の出願・保護件数」が目標値を上回っており、「高い知的財産力を活かした企業支援の実施」について年度計画を上回って実施していると判断した。

以上3項目が計画を上回り、他の3項目も計画を順調に実施し、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり

<小項目評価の集計結果>

6項目全てが小項目評価のⅢ又はⅣに該当し、Ⅲ～Ⅴの項目の割合は6/6となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	V 計画を大幅 に上回って 実施している	IV 計画を上回 って実施し ている	III 計画を順調 に実施して いる	II 計画を十分 に実施でき ていない	I 計画を大幅 に下回って いる
中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援（1～6）	6	0	3	3	0	0
合計	6	0	3	3	0	0

<小項目評価に当たって考慮した事項>

小項目評価がⅣ（計画を上回って実施）の項目は次のとおりであった。

（ ）は小項目評価の番号

① 多様なニーズに応える技術相談の充実（1）【Ⅳ】

- 来所、電話、インターネット、展示会・セミナー会場等において、合計78,528件の技術相談に対応した。
- 利用者へのアンケート調査を年2回実施し、数値目標に掲げた「技術相談満足度」は、目標値を大きく上回る平均98.2%となった。また、アンケートで利用者から要望等があった内容を全て検討し、サービスの質の向上に取り組んだ。

② 多様な企業ニーズに応える受託研究の推進（4）【Ⅳ】

- 基盤研究の成果や蓄積された技術ノウハウを活用して541件の受託研究を実施し、依頼者の課題を解決した。また、簡易な手続で企業の課題を解決する351件の簡易受託研究を実施し、数値目標に掲げた「受託研究及び簡易受託研究の実施件数」は892件となり、目標値を上回る114%の達成率となった。
- 受託研究において、154人の企業研究員を受入れ、技術移転の迅速化、人材の育成等を行った。

③ 高い知的財産力を活かした企業支援の実施（5）【Ⅳ】

- 外部講師による知財セミナー「特許制度の基礎と活用」を開催し、職員の知的財産マインドの向上に取り組んだ。また、特許出願、研究計画策定の際に重要となる先行技術調査に係るスキルアップを目指し、2回の「先行技術調査研修」を実施した。
- 法人保有の知的財産権を掲載した「知的財産シーズ集」を法人ホームページで公開して広報するとともに、展示会等で配布するなど、企業における法人保有の知財の活用促進に取り組んだ。また、
- 法人保有特許の新たな広報手段として、独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIT）の開放特許情報データベースへの登録に着手した。
- 数値目標に掲げた「知的財産の出願・保護件数」は42件となり、目標値を上回る120%の達成率となった。

（2） 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に又は上回って実施していると認められる。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した「中小企業海外展開支援セミナー」については、オンライン形式で開催するなど工夫し、コロナ禍に応じた取組を進められたい。

3-1-2 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目（高度化する企業の技術・製品開発に伴走する企業支援研究の推進等）

(1) 評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

- ① 技術開発から製品開発まで支援する高度受託研究と共同研究を着実に実施し、プレ研究制度の活用による利用者の利便向上を図るとともに、企業との契約交渉を粘り強く行って契約に結びつけるなどし、数値目標に掲げた「企業支援研究の実施件数」が目標値を上回っており、「企業支援研究（高度受託研究、共同研究）の実施、プレ研究制度の運用」等について年度計画を上回って実施していると判断した。
- ② 研究所の有する人材、研究開発力等を最大限に活用して行う基盤研究、基盤研究で培った成果を展開して行う発展研究及び新産業の創出を目指すプロジェクト研究に取り組んだ。また、大学、研究機関等との共同研究を積極的に進め、「NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業」「NEDO先導研究プログラム／エネルギー・環境新技術先導研究プログラム事業」に加え、「NEDOMーンショット型研究開発事業」に「光スイッチ型海洋分解性の可食プラスチックの開発研究」が新たに採択されるなど、数値目標に掲げた「競争的外部資金研究の実施件数」が目標値を上回っており、「多様な企業成長を支える基盤研究の推進等」について年度計画を上回って実施していると判断した。

以上2項目全てが計画を上回って実施し、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり

<小項目評価の集計結果>

2項目全てが小項目評価のⅣ又はⅤに該当し、Ⅲ～Ⅴの項目の割合は2/2となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	Ⅴ 計画を大幅 に上回って 実施している	Ⅳ 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	Ⅰ 計画を大幅 に下回って いる
高度化する企業の技術開発・製品開発に伴走する企業支援研究等の推進（7）	1	0	1	0	0	0
大阪産業の持続的発展のための研究開発の戦略的展開（8）	1	1	0	0	0	0
合計	2	1	1	0	0	0

<小項目評価に当たって考慮した事項>

小項目評価がV（計画を大幅に上回って実施）又はIV（計画を上回って実施）の項目は次のとおりであった。

（ ）は小項目評価の番号

- ① 多様な企業成長を支える基盤研究の推進、実用化・技術移転を目指す発展研究の推進及び大阪発の新産業の創出を目指すプロジェクト研究の推進（8）【V】
 - ・研究所の有する人材、研究開発力等を最大限に活用し、75件の基盤研究や大学等と連携して新規・継続を合わせて93件の共同研究を実施した。また、基盤研究で培った成果の企業への技術移転を目指し、新規・継続を合わせて5件の発展研究を実施した。
 - ・新規・継続を合わせて計62件の文部科学省科学研究費補助金研究を実施した。
 - ・新産業の創出を目指す11件のプロジェクト研究の実施や先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）事業、先導研究プログラム／エネルギー・環境新技術先導研究プログラム事業、ムーンショット型研究開発事業等の計5件の国立研究開発法人新エネルギー産業技術総合開発機構（NEDO）事業を実施した。また、「フレキシブルエレクトロニクスの量産化に向けた耐久試験装置の高度化」をはじめとする11件の経済産業省戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）を実施するなど、数値目標に掲げた「競争的外部資金研究の実施件数」は120件となり、目標値を上回る145%の達成率となった。

- ② 企業支援研究（高度受託研究、共同研究）の実施、公募型共同開発事業の実施及びプレ研究制度の運用（7）【IV】
 - ・技術開発から製品開発まで支援する企業伴走型研究として、高度受託研究及び共同研究を実施し、数値目標に掲げた「企業支援研究の実施件数」は、高度受託研究32件、共同研究27件、計59件となり、目標値を上回る113%の達成率となった。
 - ・研究所が有する技術シーズを活用して企業の製品開発を支援する公募型共同開発事業については、令和元年度採択案件の進捗状況報告審査会及び終了報告会を開催した。
 - ・本格的な研究開始前に、研究の有効性を確認する「プレ研究制度」活用件数は25件となり、数値目標に掲げた「企業支援研究の実施件数」59件のうち18件（事業収入で808万円）を占めるなどの効果を上げた。

（2） 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を上回って実施していると認められる。
- 国立研究開発法人新エネルギー産業技術総合開発機構（NEDO）ムーンショット型研究開発事業に、国立研究開発法人産業技術総合研究所等と連携提案した「光スイッチ型海洋分解性の可食プラスチックの開発研究」が新たに採択されたことを高く評価する。

3-1-3 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目（大阪産業を支える技術人材の育成等）

(1) 評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果は、C評価（計画の進捗が「やや遅れている」）となる。

- ① 企業が求める技術人材の育成のため、レディメイド型技術者研修やオーダーメイド型技術者研修、大学、業界団体等と連携した人材の育成し、最新3D機器（5軸制御マシニングセンター等）のWebサイトや紹介動画のYouTube公開による普及促進などに取り組んだ。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により数値目標に掲げた「人材育成延べ人数」が目標値を大幅に下回っており、「企業が求める技術人材の育成、関係機関との連携による次世代の産業人材等の育成」について年度計画を十分に実施できていないと判断した。
- ② 大学、支援機関等と連携して伴走型支援を行う拠点となるテクノイノベーションプラザを開設して取組を始め、両センター依頼試験等の申請手続のワンストップ化に向けた取組や顧客情報データベースの共有化による顧客サービスの更なる向上の推進、Webセミナーの開催に必要な機器等を導入してコロナ禍における積極的な情報発信を進めるなど取り組んだ。しかし、数値目標に掲げた「技術情報の発信件数」が目標値を大幅に下回っており、「製品化成果事例件数」及び「審査の上掲載された研究成果発信件数」の各実績の平均値から「一気通貫支援の充実強化に向けた産学官連携の推進、ワンストップ化、スピード化による顧客サービスの向上」等について年度計画を十分に実施できていないと判断した。
- ③ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、企業経営層との情報交流などは中止となったが、業界団体、行政機関、金融機関等との連携に取り組み、池田泉州銀行と連携した先進技術スタートアッププログラムを実施して新規研究開発プロジェクトを立ち上げた。また、国立大学法人大阪大学産業科学研究所と連携して「香り・におい・ガスセンサー研究会」を設立し、協力を進めるなどにより、「ネットワークの構築による企業支援の強化」について年度計画を順調に実施していると判断した。

以上1項目が計画を順調に実施し、他の2項目は計画を十分に実施できていないことから、大項目評価としては、C評価（計画の進捗が「やや遅れている」）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

3項目全てが小項目評価のⅡ又はⅢに該当し、Ⅲ～Ⅴの項目の割合は1/3となることから、小項目評価の集計は、C評価（計画の進捗が「やや遅れている」）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	V 計画を大幅 に上回って 実施してい る	Ⅳ 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	Ⅰ 計画を大幅 に下回って いる
大阪産業を支える技術 人材の育成（9）	1	0	0	0	1	0
顧客満足度を高める事 業化までの一気通貫の 企業支援（10、11）	2	0	0	1	1	0
合計	3	0	0	1	2	0

<小項目評価に当たって考慮した事項>

小項目評価がⅢ（計画を順調に実施）の項目は次のとおりであった。

（ ）は小項目評価の番号

① ネットワークの構築による企業支援の強化（11）【Ⅲ】

- 池田泉州銀行と連携して「先進技術スタートアッププログラム」に取り組み、3件の新規研究開発プロジェクトを立ち上げた。また、大阪グリーンナノコンソーシアム主催の「グリーンナノフォーラム」をオンライン形式で開催し、企業とのマッチングイベントを行った。
- 国立大学法人大阪大学産業科学研究所と連携して「香り・におい・ガスセンサー研究会」を設立し、研究会の運営、特に令和3年度以降のセミナーの講師選定に協力した。
- 大阪府立大学及び大阪市立大学との連携協定に基づき、人材育成、共同研究及び企業支援に関する3分野で連携事業の取組を進めた。
- 11月17日に大阪市立森之宮小学校6年生の生徒12人を受け入れ、実験見学会を実施した。

（2） 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画の進捗がやや遅れていると認められる。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により目標値を大幅に下回った「人材育成延べ人数」及び「技術情報の発信件数」については、オンライン形式で開催するなど工夫し、コロナ禍に応じた取組を進められたい。

3-2 「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

「自主的・自律的な組織運営」において、ワンストップ支援を実現するために利用者登録制度の安定的な運用に取り組み、「業務運営の継続的向上のための取組」において、技術サポートセンターによる業務の更なる効率化や学会発表、論文投稿等の研究開発成果の役職員間の情報共有を図り、「優れた職員の確保と能力向上に向けた取組」において、研究職7名と事務職3名の令和3年度の新規採用を決定し、「情報システム化の推進」に計画的に取り組むなどした。

以上4項目全てが計画を順調に実施しており、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価については、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり

<小項目評価の集計結果>

4項目全てが小項目評価のⅢに該当し、Ⅲ～Ⅴの項目の割合は4/4となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	V 計画を大幅 に上回って 実施してい る	IV 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	I 計画を大幅 に下回って いる
自主的・自律的な組織 運営 (12)	1	0	0	1	0	0
業務運営の継続的向上 のための取組 (13)	1	0	0	1	0	0
優れた職員の確保と能 力向上に向けた取組 (14)	1	0	0	1	0	0
情報システム化の推進 (15)	1	0	0	1	0	0
合計	4	0	0	4	0	0

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施していると認められる。
- 引き続き、法人経営や顧客サービスの向上のため、企業支援に関する顧客情報データベース登録内容の更なる充実を図りたい。

3-3 「財務内容の改善及び効率化」及び

3-4 「その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

「事業収入の確保」、「財務基盤の強化と効率的な予算執行」、「施設の計画的な整備及び活用等」及び「利用者の安全確保と職員の安全衛生管理」に計画的に取り組み、「危機管理対策の推進・BCPの策定」において、両センター共通のパンデミック編に関するBCPの策定に取り組んで案を取りまとめ、「社会的責任の遂行」において、情報セキュリティ基本方針に基づく情報漏洩防止対策の徹底を図り、各種研修により職員のコンプライアンス意識の向上に取り組むなどした。

以上5項目全てが計画を順調に実施しており、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価については、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

5項目全てが小項目評価のⅢに該当し、Ⅲ～Ⅴの項目の割合は5/5となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	V 計画を大幅 に上回って 実施してい る	IV 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	I 計画を大幅 に下回って いる
事業収入の確保、 財務基盤の強化と効率的な 予算執行（16）	1	0	0	1	0	0
施設の計画的な整備及び 活用等（17）	1	0	0	1	0	0
利用者の安全確保と職員 の安全衛生管理 （18）	1	0	0	1	0	0
危機管理対策の推進・ BCPの策定（19）	1	0	0	1	0	0
社会的責任の遂行 （20）	1	0	0	1	0	0
合計	5	0	0	5	0	0

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施していると認められる。

